

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	極野里の幸プロジェクト
事業主体 (連絡先)	極野山菜生産販売組合 長野県下水内郡栄村堺 12705
事業区分	産業振興・雇用拡大
事業タイプ	ソフト
総事業費	657,843 円 (うち支援金: 503,000 円)

事業内容

極野区は、栄村東部エリアの中でも一番奥地にあるため、特に山菜が豊富な地区である。しかし、年々住民の高齢化に伴い山に入る人数も減っているため、山の荒れ具合を危惧していた。そこで、H29年公民館を新設する際に調理室を惣菜加工施設として整備。それを活かし、料理家と共に山菜や土地で採れるものの価値の見直しと、新たな加工商品の開発、弁当販売を実施。

- ・ 里の幸料理教室 2回 極野公民館 計40名参加
- ・ 里の幸加工品研究・商品開発
- ・ 里の幸弁当販売

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①山菜のパスタソースが完成。他になく、様々な世代に気軽に山菜を食べてもらえるようになることを期待。
- ②お弁当販売をきっかけに、村の山菜料理や、郷土料理を求めて極野にやってくるお客様が増え、H30年度で3団体の方々を受け入れ交流するようになった。
- ③今まで収穫後そのまま卸す量しか採っていなかったが、料理教室や、加工品開発、研究のために収穫量を増やし、塩蔵し使用。新商品を完成したので、来年度は更に増やす計画。
- ④料理家の方に新しい山菜の活用法を教えて頂いたことにより、山菜をより収穫したいという気持ちや、山菜が豊富に採れる豊かさを改めて感じる事ができた。また、若い世代にも山菜に興味を持ってもらう事ができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

新しく完成した加工商品を軸に、極野地区をよりPRし、より多くの方に知って頂き、実際に訪れて頂けるように山菜採りのイベント等も来年度計画中。また、料理教室や加工品研究、開発を継続していくことにより、山菜をより多くの方に気軽に食べてもらうようにしていく。特に若い世代に山菜に興味を持ってもらい、山菜販売促進にもつなげていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【里の幸料理教室の様子】

【目標・ねらい】

- ①新たな山菜加工品の開発
- ②交流人口の増加
- ③山菜収穫量の増加
- ④山菜の価値の見直し

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・ 想像以上の新商品が誕生。
- ・ 弁当販売の周知により、交流人口がこれまで0名だったのが、80名に増員。
- ・ 料理教室を通し、村内の女性の地区や年齢を超えた交流をすることができた。